

# Web対応デマンドコントローラ 取扱説明書 (TELNET編)

WTM-DMD6C-□□A□00

製品改良の為予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

*watanabe*  
渡辺電機工業株式会社

## 目次

1 工場出荷時設定.....	3
2 TELNET接続の前に.....	3
2-1 TELNETの文字コードの設定.....	3
2-2 コマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定.....	4
3 TELNET接続.....	5
4 各種設定と参照.....	7
4-1 モジュールリセット.....	7
4-2 内部イベントログ参照.....	8
4-3 警報イベントログ参照.....	11
4-4 全イベントログ参照.....	13
4-5 全イベントログクリア.....	13
4-6 LAN送信/受信/エラー情報の参照.....	14
4-7 LAN送信/受信/エラー情報のクリア.....	15
4-8 通信速度・通信方式の参照および設定.....	15
4-9 通信エラーステータス応答の有無の参照および設定.....	16
4-10 NTP自動時刻補正時間の参照および設定.....	16
4-11 モジュールを工場出荷時の状態に戻す.....	16

Microsoft Windows XP は、米国マイクロソフト社の登録商標です。  
本文中の登録商標には、TM や®は表示していません。

この度はWeb対応デマンドコントローラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
本取扱説明書ではTELNETによる本器の設定方法や設定値の参照方法について説明しております。  
本取扱説明書の内容に関しては製品改良の為、予告なしに変更する事がありますのでご了承ください。

- ご使用前に本取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに大切に保管し、必要などきにお読みください。

## 1 工場出荷時設定

本器の工場出荷時の設定は下記の通りとなります。

IPアドレス	:192.168. 1. 10
サブネットマスク	:255.255.255. 0
デフォルトゲートウェイ	: 0. 0. 0. 0
NTPサーバ IPアドレス	: 0. 0. 0. 0
LAN通信速度・LAN通信方式	:自動(オートネゴシエーション)
通信エラーステータス応答設定	:無し

## 2 TELNET接続の前に

TELNET接続を行う前に、TELNETの文字コードの設定とコマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定を行います。

設定の例としてWindows XPでの操作方法を説明します。

コマンド入力は半角/全角または、大文字/小文字の区別がありますので、半角英数字で記載の通り入力して下さい。

※1 以下、スペースと改行入力は下記のように表記します。

スペース :

改行入力 :

### 2-1 TELNETの文字コードの設定

本器の各種設定をWindows付属のTELNETから行う際に、TELNETの文字コードをシフトJISに設定する必要があります。(設定を行わないと日本語文字が正しく表示されません)

**TELNETの文字コードをシフトJISに設定します。**

- ① Windowsの『スタート』より『すべてのプログラム(P)』を選択します。
- ② 『アクセサリ』にある『コマンド プロンプト』をクリックします。
- ③ コマンドプロンプト画面が表示されましたら、『telnet』と入力してTELNETを起動します。

```
C:\> telnet 
```

- ④ TELNET起動後、『set  codeset  shift  jis』と入力して文字コードをシフトJISに設定します。

```
Microsoft Telnet> set  codeset  shift  jis 
```

- ⑤ 『display』を入力して設定内容の確認をします。

```
Microsoft Telnet> display 
```

- ⑥ 『quit』を入力してTELNETを終了します。

```
Microsoft Telnet> quit 
```

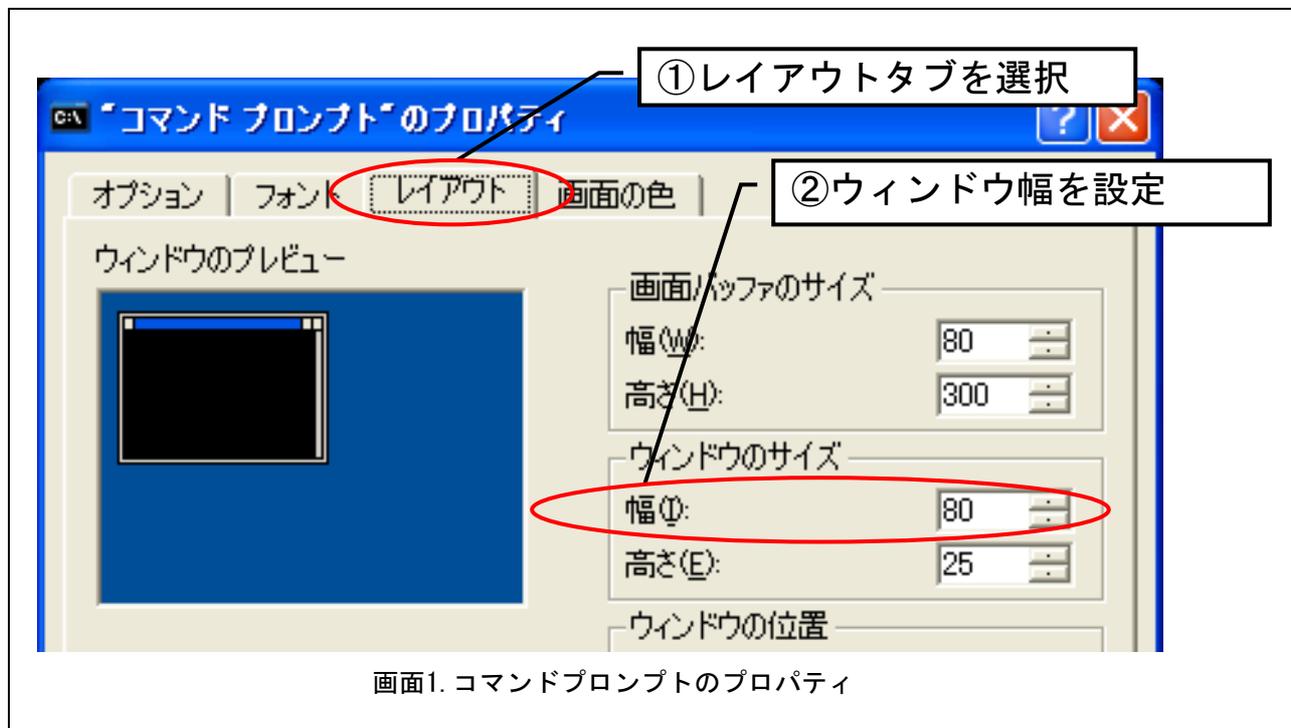
以上でTELNETの文字コードの設定は完了となります。  
一度設定すれば、次回のTELNETの起動からは上記の設定が適用されます。

## 2-2 コマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定

コマンドプロンプトのウィンドウ幅の設定によっては、TELNETの画面で文字が途中で折り返されて表示される場合があります。その場合、適切なウィンドウ幅に設定してTELNET接続してください。

コマンドプロンプトのウィンドウ幅を設定します。

- ① コマンドプロンプトのタイトルバーを右クリックし、プロパティを選択します。
- ② レイアウトタブを選択します。
- ③ 「ウィンドウのサイズ」の幅の値を設定してください。



### 3 TELNET接続

TELNET接続の例としてWindows XPでの操作方法を説明します。

コマンド入力は半角／全角または、大文字／小文字の区別がありますので、半角英数字で記載の通り入力して下さい。

- ① Windowsの『スタート』より『すべてのプログラム(P)』を選択します。
- ② 『アクセサリ』にある『コマンド プロンプト』をクリックします。
- ③ DOS画面が表示されましたら、『telnet □ IPアドレス』と入力してTELNETを起動します。

例:モジュールのIPアドレスが『192.168.1.10』の場合

```
C:¥>telnet □ 192.168.1.10 ◀
```

- ④ ログインユーザー名『watanabe』を入力します。

※1 ログインユーザー名は変更できません。

```
>login:watanabe ◀
```

- ⑤ パスワード『rial』を入力します。

※2 パスワードは変更できません。

※3 入力したパスワードは、実際の画面上では\*で表示されます。

```
>password:rial ◀
```

※4 ログインユーザー名、またはパスワードが間違っていた場合は、下記の通り表示されます。

```
login incorrect ◀
```

```
>login:
```

ログインに3回失敗すると切断されます。再度TELNETに接続する場合は③から操作を行って下さい。

## ⑥ Telnetに接続すると下記メニューを表示します。

```
telnet VerX.XX 2010/01/01 00:00:00
(rst)本体リセット
(evd)内部イベント
(lst)LAN情報
*(lan)LAN通信速度、通信方式
(err)エラーステータス応答参照/設定
(nst)NTP補正時刻 参照/設定
*(ini)工場出荷時設定
```

\*()マークのコマンドは、本体リセット後、または本体の電源ON時に適用され動作を開始します。

メニュー上部の内容は下記の通りとなります。

```
VerX.XX                :ソフトウェアバージョン
2010/01/01 00:00:00   :TELNETメニュー表示時刻
```

※5 TELNET接続中に『?』を入力すると上記メニューを表示します。

```
>? 
```

コマンドが間違っていた場合は下記の通り表示されます。

```
>Error!
```

## ⑦ 『bye』または『logout』と入力するとTelnetを切断します。

```
>bye                 TELNETを切断します。
ホストとの接続が切断されました。

>logout             TELNETを切断します。
ホストとの接続が切断されました。
```

※6 Telnetに接続後、3分間何も入力しない状態が続くと、自動的にTELNETを切断します。

## 4 各種設定と参照

TELNETでの各種設定方法と設定値の参照方法を説明します。  
本器はTELNETから下記の参照および設定を行う事ができます。

- ・モジュールリセット
- ・内部イベントログの参照およびクリア
- ・警報イベントログの参照およびクリア
- ・LAN送信/受信/エラー情報の参照およびクリア
- ・通信速度と通信方式の参照および設定
- ・通信エラーステータス応答の有無の参照および設定
- ・モジュールを工場出荷時の状態に戻す

### ⚠ 注意

IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、NTPサーバ IPアドレスは、TELNETから設定はできません。

IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、NTPサーバ IPアドレスの設定は、本器に搭載されているWeb機能から行います。Web機能につきましては、下記の取扱説明書をご参照ください。

- ・Web対応デマンドコントローラ取扱説明書(仕様編)
- ・Web対応デマンドコントローラ取扱説明書(設置・設定編)

#### 4-1 モジュールリセット

モジュールにリセットを指示します。

リセット後、TELNETは切断され、モジュールが再起動します。

```
>rst 
```

```
リセット?(y/n):y 
```

```
リセットOK
```

```
>
```

『rst』を入力します。

y を入力するとリセットします。

```
リセット?(y/n):n 
```

```
リセットcancel
```

```
>
```

n を入力するとリセットしません。

## 4-2 内部イベントログ参照

本器で発生した内部イベントログを、発生時刻の新しいものから順に参照します。  
発生した全ての内部イベントログを参照する方法と、イベントログNoを指定して参照する方法があります。  
イベントログ内容については、表1をご参照ください。

参照できるイベントログの最大件数は、内部イベントログと警報イベントログで合計300件までです。  
イベントログの件数が300件を超えた場合、最も古いものから上書きされます。

(例)発生した全ての内部イベントログを参照する場合	
>evd □ M □ 0 <input type="button" value="↵"/>	>『evd □ M □ 0』を入力します。
001:2010/01/05 05:05:50 08 Ready	>内部イベントログ1件目が表示されます。
002:2010/01/04 04:04:40 08 Power OFF	>内部イベントログ2件目が表示されます。
003:2010/01/03 03:03:30 12 LAN Link (Up 100/D)	>内部イベントログ3件目が表示されます。
004:2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link (Down)	>内部イベントログ4件目が表示されます。
⋮	
⋮	
300:2010/01/01 01:01:10 12 LAN Link (Up 100/D)	>最後の内部イベントログが表示されます。
>	
(例) イベントログNoを指定して参照する場合	
>evd □ M □ 10 <input type="button" value="↵"/>	>『evd □ M □ イベントログNo』を入力します。
010:2010/01/03 03:03:30 08 IP Address Initial	>指定したイベントログNoの内部イベントログが表示されます。
011:2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link (Up 100/D)	>指定したイベントログNo以降の内部イベントログが表示されます。
⋮	
⋮	
300:2010/01/01 01:01:10 08 Reset Start (Power)	>最後の内部イベントログが表示されます。
>	
(例) 表示するイベントログが20件より多い場合	
>evd □ M □ 0 <input type="button" value="↵"/>	>内部イベントログを参照します。
⋮	
⋮	
020:2010/01/03 03:03:30 12 LAN Link (Up 100/D)	>内部イベントログ20件目が表示されます。
continue?: <input type="button" value="↵"/>	>20件ごとに表示を一時中断します。 残りのイベントログの表示を続ける場合は <input type="button" value="↵"/> を入力してください。 イベントログの表示を中止する場合は <input type="button" value="↵"/> 以外のキーを入力してください。

表1. 内部イベントログの内容

イベントログ	内容
08 PowerOFF	通常動作中に本器の電源がOFFになりました。
08 Ready	電源が投入されて通常動作を開始しました。
12 LAN Link (Down)	LAN通信が切断されました。
12 LAN Link (Up xxx/y)	LAN通信が接続されました。 ()内には通信速度と通信方式が表示されます。 (Up 100/D) : 100Mbps/全二重 (Up 100/H) : 100Mbps/半二重 (Up 10/D) : 10Mbps/全二重 (Up 10/H) : 10Mbps/半二重
09 RTC Set (From xxxx/yy/zz XX:YY:ZZ)	モジュールの内部時計が設定されました。 ()内には設定前の時刻が表示されます (例) (From 2010/01/01 01:02:03) : 設定前の内部時計は2010年01月01日 01時02分03秒
08 LAN SW (xxx)	通常動作中に本器のLAN有効スイッチによりLAN有効/無効の切り替えが行われました。 ()内にはLANの有効/無効の切り替えが表示されます。 (ON) : LAN有効に切り替え (OFF) : LAN無効に切り替え
08 IP Address Initial	IPアドレスのみ工場出荷時設定に戻す操作が行われました。  操作方法については、Web対応デマンドコントローラ取扱説明書(仕様編)をご参照ください。
08 Telnet ini Initial	TELNETによって工場出荷時の状態に戻す指示が行われました。  工場出荷時の状態に戻す指示については、 <b>4-11. モジュールを工場出荷時の状態に戻す</b> をご参照ください。
08 SET SW Initial	セットスイッチによって工場出荷時設定に戻す操作が行われました。 操作方法については、Web対応デマンドコントローラ取扱説明書(仕様編)をご参照ください。
08 Reset Start (Telnet)	TELNETによって本器のリセットが指示されました。 リセットの指示については、 <b>4-1. モジュールリセット</b> をご参照ください。
08 Reset Start (Power)	瞬停によるリセットが発生しました。
08 Reset Start (Error)	重故障によるリセットが発生しました。
08 Watch Dog Reset Start	本器にウォッチドッグリセットが発生しました。
08 SOFT VerUP (OK)	本器のソフトウェアのバージョンアップが行われ、バージョンアップが成功しました。

イベントログ	内容
11 Program SUM Check Error	本器のプログラムにSUM値エラーが発生しました。
11 RAM Check Error	本器のメモリチェック時にエラーが発生しました。
11 FRAM SUM Check Error	本器の不揮発メモリのSUM値エラーが発生しました。
11 FRAM Check Error	本器の不揮発メモリチェック時にエラーが発生しました。
11 FRAM Write Error(xxxx)	本器の不揮発メモリの書き込み時にエラーが発生しました。  ()内には不揮発メモリのアドレス(0x0000~0xFFFF)が表示されます。 (0000) : アドレス0x0000でエラーが発生
11 FRAM Read Error(xxxx)	本器の不揮発メモリの読み込み時にエラーが発生しました。  ()内には不揮発メモリのアドレス(0x0000~0xFFFF)が表示されます。 (0000) : アドレス0x0000でエラーが発生
11 RTC Error(xxx)	モジュールの内部時計にエラーが発生しました。 ()内にはエラーの内容が表示されます。 (COM) : 内部時計との通信エラーが発生 (BAT) : 内部時計のバッテリーバックアップの電圧が低下
06 LAN Error(DMA)	LANエラーが発生しました。
06 NTP Error	NTPの通信異常が発生しました。
06 NTP Error(OVER)	SNTPでの通信時、本器と現在時間との差が5分を超過しました。

### 4-3 警報イベントログ参照

本器で発生した内部イベントログを、発生時刻の新しいものから順に参照します。

参照できるイベントログの最大件数は、内部イベントログと警報イベントログで合計300件までです。イベントログの件数が300件を超えた場合、最も古いものから上書きされます。

(例)発生した全ての警報イベントログを参照する場合

```
>evd □ A □ 0           >『evd □ A □ 0』を入力します。
001:2012/01/05 05:05:50 03 デマンド制御(注意,発生,現在電力:XX.XXkW/設定値:XXXkW)
      >警報イベントログ1件目が表示されます。
      イベントログ内容 (表2をご参照ください)
      発生時刻 (西暦/月/日 時:分:秒)
      イベントログNo (001~300)
002:2012/01/04 04:04:40 03 デマンド制御(注意,復帰,現在電力:XX.XXkW/設定値:XXXkW)
      >警報イベントログ2件目が表示されます。
003:2012/01/03 03:03:30 03 デマンド制御(遮断,発生,現在電力:XX.XXkW/設定値:XXXkW)
      >警報イベントログ3件目が表示されます。
004:2012/01/02 02:02:20 03 デマンド制御(遮断,復帰,現在電力:XX.XXkW/設定値:XXXkW)
      >警報イベントログ4件目が表示されます。
      :
      :
300:2012/01/01 01:01:10 03 デマンド制御(メール異常,[メール内容])
      >最後の警報イベントログが表示されます。
>
```

(例)イベントログNoを指定して参照する場合

```
>evd □ A □ 10           >『evd □ A □ イベントログNo』を入力します。
010:2012/01/03 03:03:30 14 間欠制御(常時制御開始)
      >指定したイベントログNoの警報イベント
      ログが表示されます。
011:2012/01/02 02:02:20 14 間欠制御(常時制御終了)
      >指定したイベントログNo以降の警報
      イベントログが表示されます。
      :
      :
300:2012/01/01 01:01:10 14 間欠制御(デマンド制御(時限パルス異常))
      >最後の警報イベントログが表示されます。
>
```

(例)表示するイベントログが20件より多い場合

```
>evd □ A □ 0           >警報イベントログを参照します。
      :
      :
020:2012/01/03 03:03:30 14 間欠制御(デマンド制御(時限パルス異常))
      >警報イベントログ20件目が表示されます。
continue?:          >20件ごとに表示を一時中断します。
      残りのイベントログの表示を続ける場合は
      を入力してください。
      イベントログの表示を中止する場合は
      以外のキーを入力してください。
```

表2. 警報イベントログの内容

イベントログ	内容
03 デマンド制御(注意, 発生, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	注意警報発生時 設定値は目標電力を表示します。
03 デマンド制御(注意, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	注意警報復帰時 設定値は目標電力を表示します。
03 デマンド制御(遮断, 発生, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	遮断警報発生時 設定値は遮断電力を表示します。
03 デマンド制御(遮断, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	遮断警報復帰時 設定値は遮断電力を表示します。
03 デマンド制御(超過, 発生, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	超過警報発生時 設定値は警報電力を表示します。
03 デマンド制御(超過, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	超過警報復帰時 設定値は警報電力を表示します。
03 デマンド制御(メール異常, XXXXメール内容)	メール送信失敗時 超過, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW 時限パルス異常
03 デマンド制御(最大デマンドクリア)	クリア操作時
03 デマンド制御(時限パルス異常)	時限終わり3秒タイムアウト時
14 間欠制御(常時制御開始)	常時制御開始時
14 間欠制御(常時制御終了)	常時制御終了時
14 間欠制御(注意, 発生, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	注意警報発生時 設定値は目標電力を表示します。
14 間欠制御(注意, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	注意警報解除時 設定値は目標電力を表示します。
14 間欠制御(制御, 開始, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	制御開始時 設定値は制御電力を表示します。
14 間欠制御(制御, 終了, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	制御終了時 設定値は制御電力を表示します。
14 間欠制御(超過, 発生, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	超過警報発生時 設定値は警報電力を表示します。
14 間欠制御(超過, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW)	超過警報解除時 設定値は警報電力を表示します。
14 間欠制御(メール異常, XXXXメール内容)	メール送信失敗時 超過, 復帰, 現在電力: 00kW/設定値: 00kW 時限パルス異常
14 間欠制御(時限パルス異常)	時限終わり3秒タイムアウト時

#### 4-4 全イベントログ参照

本器で発生した内部イベントログと警報イベントログの両方を、発生時刻の新しいものから順に参照します。

発生した全てのイベントログを参照する方法と、イベントログNoを指定して参照する方法があります。イベントログ内容については、**4-2. 内部イベントログ参照**と**4-3. 警報イベントログ参照**をご参照ください。

参照できるイベントログの最大件数は、内部イベントログと警報イベントログで合計300件までです。イベントログの件数が300件を超えた場合、最も古いものから上書きされます。

(例)発生した全てのイベントログを参照する場合

```
>evd □ 0 
001:2010/01/03 03:03:30 08 PowerOFF
002:2010/01/02 02:02:20 08 Ready
      :
      :
300:2010/01/01 01:01:10 12 LAN Link (Up 100/D)
```

>『evd □ 0』を入力します。  
>イベントログ1件目が表示されます。  
>イベントログ2件目が表示されます。  
  
>最後のイベントログが表示されます。

(例)イベントログNoを指定して参照する場合

```
>evd □ 10 
010:2010/01/03 03:03:30 08 IP Address Initial
011:2010/01/02 02:02:20 12 LAN Link (Up 100/D)
      :
      :
300:2010/01/01 01:01:10 08 Reset Start (Power)
```

>『evd □ イベントログNo』を入力します。  
>指定したイベントログNoのイベントログが表示されます。  
>指定したイベントログNo以降のイベントログが表示されます。  
  
>最後のイベントログが表示されます。

(例)表示するイベントログが20件より多い場合

```
>evd □ 0 
      :
      :
020:2010/01/01 01:01:10 12 LAN Link (Up 100/D)
continue?: 
```

>イベントログを参照します。  
  
>イベントログ20件目が表示されます。  
>20件ごとに表示を一時中断します。  
残りのイベントログの表示を続ける場合は  を入力してください。  
イベントログの表示を中止する場合は  以外のキーを入力してください。

#### 4-5 全イベントログクリア

内部イベントログと警報イベントログのクリアを指示します。

```
>evd □ C
      :
      :
クリア?(y/n):y 
クリアOK
      :
      :
クリア?(y/n):n 
クリアcancel
>
```

『evd □ C』を入力します。  
  
y  を入力するとクリアします。  
  
n  を入力するとクリアしません。

#### 4-6 LAN送信/受信/エラー情報の参照

LANの送信と受信とエラーの情報を参照します。  
下記の情報を表示します。

送信最大パケット数	: 電源を投入した時点から現在までの間における、1秒間の送信最大パケット数と最大時の時刻を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
受信最大パケット数	: 電源を投入した時点から現在までの間における、1秒間の受信最大パケット数と最大時の時刻を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
送信パケット数	: 直前の1秒間の送信パケット数を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
受信パケット数	: 直前の1秒間の受信パケット数を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
送信エラー回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に発生した送信エラー回数を表示します。回数は0~9999999の範囲で表示します。
CRCエラー受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信したCRCエラーパケット数を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
ショートパケット受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信したショートパケット数を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
ロングパケット受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信したロングパケット数を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
端数パケット受信回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に受信した端数パケット数を表示します。パケット数は0~9999999の範囲で表示します。
受信バッファオーバーフロー回数	: 電源を投入した時点から現在までの間に発生した受信バッファのオーバーフロー回数を表示します。回数は0~65535の範囲で表示します。

>1st	『1st』を入力します。
SendMAX=9999999/SEC(2010/01/01 00:00:00)	送信最大パケット数
ReceiveMAX=9999999/SEC(2010/01/01 00:00:00)	受信最大パケット数
Send=9999999/SEC、Receive=9999999/SEC	送信パケット数と受信パケット数
SendErr(TX)=9999999	送信エラー回数
RecvErr(CRC)=9999999	CRCエラーの受信回数
RecvErr(Short)=9999999	ショートパケット受信回数
RecvErr(Long)=9999999	ロングパケット受信回数
RecvErr(Align)=9999999	端数パケット受信回数
RecvErr(Over)=65535	受信バッファオーバーフロー回数
>	

#### 4-7 LAN送信/受信/エラー情報のクリア

LANの送信と受信とエラー情報のクリアを指示します。  
 パケット数や回数の情報を0クリアします。

>1st □ C	『1st □ C』を入力します。
クリア?(y/n):y □	y □を入力するとクリアします。
クリアOK	
クリア?(y/n):n □	n □を入力するとクリアしません。
クリアcancel	
>	

#### 4-8 通信速度・通信方式の参照および設定

現在のモジュールの通信速度と通信方式を参照または設定します。  
 通信速度と通信方式と設定方法の内容は下記のようになります。

通信速度	:100Mbps = 100
	10Mbps = 10
通信方式	:全二重 = D
	半二重 = H
設定方法	:TELNETによる手動設定 = (M)
	自動(オートネゴシエーション) = (A)

>lan □	『lan』を入力します。
lan:10/H(M)	現在の通信速度と通信方式の設定を表示します。
lan:100/D(A)	自動(オートネゴシエーション)が適用されている場合は、現在のモジュールの通信速度と通信方式を表示します。
(例)通信速度を10Mbps、通信方式を半二重に設定する場合	
>lan □ 10/H □	『lan □ 通信速度/通信方式』を入力します。
lan:10/H(M)	設定した値を表示します。
(例)通信速度と通信方式を自動(オートネゴシエーション)に設定する場合	
>lan □ A □	『lan □ A』を入力します。
Lan:A	設定した値を表示します。

※7 通信速度と通信方式の設定はモジュールをリセットしないと適用されません。

#### 4-9 通信エラーステータス応答の有無の参照および設定

現在の通信エラーステータス応答の有無を参照および設定します。  
通信エラーステータス応答の有無の内容は下記のようになります。

設定値 :通信エラーステータスの応答無し = d  
通信エラーステータスの応答有り = e

>err <input type="checkbox"/>	『err』を入力します。
err:d	現在の通信エラーステータス応答の有無を表示します。
(例)通信エラーステータス応答を有りに設定する場合	
>err <input type="checkbox"/> e <input type="checkbox"/>	『err <input type="checkbox"/> 設定値』を入力します。
err:e	設定した値を参照します。

※8 通常、通信エラーステータスの設定は行う必要はありません。

#### 4-10 NTP自動時刻補正時間の参照および設定

現在のNTP自動時刻補正時間を参照および設定します。

設定値 :NTP自動時刻補正時間 (時・分は二桁入力。24時間表示)

>nst <input type="checkbox"/>	『nst』を入力します。
12:05	現在のNTP自動時刻補正時間を表示します。
(例)NTP自動時刻補正の時間を設定する場合	
>nst <input type="checkbox"/> 13:00 <input type="checkbox"/>	『nst <input type="checkbox"/> 設定時間』を入力します。
13:00	設定した値を表示します。
>nst <input type="checkbox"/> 09:03 <input type="checkbox"/>	『nst <input type="checkbox"/> 設定時間』を入力します。(時・分は二桁入力です)
09:03	設定した値を表示します。

#### 4-11 モジュールを工場出荷時の状態に戻す

モジュールを工場出荷時の状態に戻します。

リセット後、TELNETは切断され、モジュールが再起動して工場出荷時の状態に戻ります。

>ini	『ini』を入力します。
クリア?(y/n):y <input type="checkbox"/>	y <input type="checkbox"/> を入力すると工場出荷時の状態に戻ります。
ini Go	
クリア?(y/n):n <input type="checkbox"/>	n <input type="checkbox"/> を入力すると工場出荷時の状態に戻りません。
クリアcancel	
>	

※9 工場出荷時の状態については、「1 工場出荷時設定」をご参照ください。

※10 「ini」により工場出荷時の状態に戻した場合、内部イベントログと警報イベントログは消去されません。

ご注意 この取扱説明書の内容は、お断りなく変更する場合がありますのでご了承下さい。

*watanabe*  
**渡辺電機工業株式会社**

<http://www.watanabe-electric.co.jp>

本社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目16番19号  
TEL 03-3400-6141(代) FAX 03-3409-3156

IM0582-01 2012年10月